

企画提案型利用間伐等促進事業に係る特記仕様書

公社造林事業における企画提案型利用間伐等促進事業における利用間伐、森林作業道開設に関しては、公益社団法人新潟県農林公社造林事業請負作業標準仕様書の他この特記仕様書によるものとする。

第1 利用間伐

1. 施業基準は公社造林第10次5カ年計画に定めるところによる。
2. 上記の他、樹冠長率、形状比等により密度管理が必要な団地とする。
3. 伐採に当たっては、残存木を損傷することのないように十分留意するとともに、処理については、残存木の生育及び管理を妨げることのないよう留意する。
4. 定性間伐及び列状間伐における伐採木の選定に当たっては、伐採前にビニールテープ等で選木状況が分かるように示し、監督員の指示を得なければならない。

第2 森林作業道開設基準及び路網密度

1. 森林作業道の作設基準は、新潟県森林作業道開設基準による。
2. 主に車両系システム（緩斜面地形）による集材作業は、路網密度（既設路網を含む）150m～200m/haを目安とする。（プロセッサ、ウインチ、グラップル、フォワーダ）
また、路網間隔は収穫予想樹高の2倍以上とする。
3. 架線系システム（急峻な地形）による集材は、路網密度（既設路網を含む）100m/ha程度とする。（スイングヤーダ、ウインチ、プロセッサ、フォワーダ等）
なお、列状間伐を行って集材する場合は、この第3項を適用する。

第3 造材・立木の販売

1. A、B材を造材する場合は、直近の市場動向を調査し有利販売できるよう努めること。
2. 元口の処理に当たっては、商品価値が下がらないよう留意すること。
3. 原則として山土場で検知するが、C材等これによりがたい場合は、トン数から材積を求めること。
4. 伐採した木材は、事業年度内に自社買取を含め処理を完了すること。